

・早速、早速「ママよんで」名前は代えてね！」とリクエストされ、不思議な不思議な気持ちで一緒に読みました。内容は知っているのでしょうね、とても細かい絵のことを説明してくれたりして、なかなか進まない。自分が絵本の中に入っているような気持ちになりました。

添えられていたお手紙を読んで、また涙です。私の中では楓の5年前、まーくんの4年前のことが思い返されました。かわい盛りの子の我が子の姿。歩くことも、しゃべることもしゃんと我が子を、いつもの笑顔で毎日迎えてくれるおじちゃん先生。言葉数は少なくても、どれだけ心で助けてもらったことか！今でも赤ちゃん組に入っていくと、あのおじちゃん、あったかい温もりを感じます。きつとずっと前から小羊の先生方はみんな同じように子供達を迎えてくれていたんですね。

・2、3けんの本屋さんにさがしてみましたが、みつかりませんでした。それをもらうなんて、ほんとうにありがとうございます！

・おじちゃん先生の絵本のありがたございました。表紙を見たたん涙があふれてきました。さっそくももちゃんが「おじちゃん先生だー!!」と言って絵本をひとりじめして読んでいました。絵本に「ももちゃん」という女の子がでてきて、すつぐうれしそうに喜んでいました。

・ほんの内容、絵ともにすばらしく、とても感動しました。一生の思い出の絵本だと思います。大事にしていきたいと思

・ねる前に読んであげました。保育園の子の名前におきかえてあげると、笑いながらよく聞いていました。「バツタ！セミ！」絵を見て指さして教えてくれました。おじちゃん先生がい

なくなってもこの本のおかげでいつまでも子供たちの心におじちゃん先生の姿がよみがえってきますね!!
朝も起きると、ねぼけながら「おじちゃんは何？」と（笑）
夢に出てきたのかなあ...

・おじちゃん先生の本を読み聞かせていて、私が泣いてしまつて：・啓太に「お母さん大丈夫かい」と心配されました。

・読んでいるとおじちゃんが園に居た頃を思い出し、感極まつて読めなくなつてしまいました。星組の時から昼寝をしなくて、よくおじちゃんが抱っこ、おんぶをしたり、砂場で遊ばせてくれていたと聞いていました。早番の時には園に着くとすぐおじちゃんのお膝の上に坐つて、園から帰る時には駐車場に居るおじちゃんに抱きついていつもニコニコ笑っていました。おじちゃんのお存在は今でも大きいですね。美喜も絵本を読んでいて、おじちゃんと過ごした日々を思い出してくれていると思います。

